

2021年9月28日

辺野古・高江を守ろう！NGO ネットワーク
国際環境 NGO FoE Japan
美ら海にもやんばるにも基地はいらない市民の会

沖縄島北部やんばるの森の世界遺産登録と北部訓練場に関する追加質問

<防衛省>

1. 沖縄防衛局が行っている東村周辺の騒音測定結果を、Lden 値ではなく、実データで示されたい。
2. 琉球新報 2021年5月11日付「世界自然遺産推薦地のすぐ近く…東村高江周辺では米軍機の騒音が約3・5倍に」では、「2014年度は80デシベル以上の騒音測定回数は105回だったが、20年度は368回だった」としている。これは、沖縄防衛局の調査結果と食い違いはないか。
3. 北部訓練場の返還地に関して、株式会社いであに支障除去を委託したことだが、これは競争入札で行ったのか。委託金額、委託内容、支障除去の対象地域についてご教示いただきたい。
4. 支障除去の完了を発表し返還地を地権者に引き渡す前に、沖縄防衛局は環境省、沖縄県、国頭村、東村に、鉄板などの米軍廃棄物がまだ残っていることについて報告はしていないか。
5. 2020年10月に放射性物質コバルト60含有電子部品が2016年返還北部訓練場跡地で見つかった。その部品の入っていたペール缶や周りを覆っていたコンクリートと、2019年11月に発見された内容物不明のドラム缶は、先月確認した際にはまだ撤去されていなかった。
 - 5-1) 発見されてから時間が経っているがなぜ放置しているのか。
 - 5-2) 電子部品を見つけたいであ株式会社の現場担当は、沖縄防衛局に対し、ペール缶に入っていた物体はすべて現場に設置している倉庫に保管したと報告している。しかし、実際はその後に宮城が同一缶で19個の部品を確認している。いであ株式会社担当の沖縄防衛局への報告が事実と異なるのはなぜか。また、異なる報告をしたことに対し沖縄防衛局はどのような対応をとったか。
 - 5-3) いであ株式会社の現場担当は、電子部品を危険物ではないと判断し現場に設置した倉庫に保管している。しかし、実際は人体や生態系に影響のないレベルとはいえ放射性物質を含む部品であった。一見して遮蔽が目的と分かるコンクリートで固めたペール缶内から

発見されたにも関わらず危険物ではないと判断したのはなぜか。また、沖縄防衛局はその報告を聞いてどのような対応をとったか。

6. 2021年上旬、鉄板の撤去が終了したあと、ヘリパッド跡地周囲で作業員らが地中の銃弾空包やゴムシートなどを掘り出す作業をおこなっている。これは実質、支障除去ではないのか。これらの作業は鉄板の撤去と同一の事業に含まれているものか。

7. 支障除去の土壤汚染調査の監修をおこなった(故)細見正明氏(当時東京農工大学教授)が、沖縄防衛局が作成した返還地引き渡し式典上映用ビデオの中で支障除去の方法について説明している場面があるが、その助言内容はずさんである。どのような経緯で細見氏が監修者として選抜されたのか。また、細見氏に支払われた契約金はいくらか。

8. 2018年1月に2016年返還北部訓練場跡地に米軍廃棄物が残留していることが報道された直後に沖縄防衛局は地中に縦の状態で埋めっていたドラム缶を撤去し、ドラム缶のあった場所を土で埋めたが、宮城秋乃氏が掘り返したところ、ドラム缶の底部分は地中に残っていた。まだ残っているのに埋めたのはなぜか。このドラム缶のあった場所の土からはPCBが検出されている。PCBの存在を認識したうえで処理がおこなわれたのか。

9. 2016年返還北部訓練場跡地の林道の入り口には支障除去がおこなわれた際に設置されたゲートが現在も残っている。他の国有林林道入り口にはそのようなゲートはないのに、なぜ設置されたままなのか。

10. 2020年7月13日に、1993年に返還された東村高江の北部訓練場跡地で、陸上自衛隊がマンガース防除作業員の発見した手榴弾を回収している。その手榴弾の詳細をご教示いただきたい(戦時中のものか、戦後の米軍の訓練に使われたものか。手榴弾の種類。不発弾か使用済みか。)。戦後の米軍のものであった場合、2016年に返還された北部訓練場跡地と回収方法が違うのはなぜか。

<環境省>

1. 9月21日の会合で、米軍機の騒音の問題を日米合同委員会環境分科委員会で議論してもらうという見解が示された。具体的にどのようなタイムフレイムでこの問題を同委員会にあげていくのか(いつ議題にあげるのか)を示していただきたい。

2. 9月21日の会合で境界線越えの問題は、既存の国立公園にかかる法制度で対応するとの回答があった。しかし、軍事訓練が行われていることを踏まえると、危険性や安全性の観点から、既存の法制度では対応できないと考える。境界線越えの問題も、騒音の問題と関連

させて日米合同委員会で議論すべきだと考えるが、環境省はどう考えるか。

3. 9月21日の会合で、防衛省から、世界遺産に登録された返還地における米軍の廃棄物や汚染は今後適切に処理をするとの見解が示された。世界遺産地の現状を示すためには、廃棄物や汚染の場所、種類、量、そして処理対応を示したマップ／報告書を作り、公開することも必要だと考えるが、環境省はどう考えるか。

4. 環境省の2019年推薦書には米軍の「Integrated Natural Resources and Cultural Resources Plan 2014」が記載されていたが、環境省は最新版を入手しているかどうかを教えていただきたい。INRCRPは世界遺産に隣接する北部訓練場の環境資源や文化自然を示した重要な報告書であり、やんばるの森の世界遺産地部分を保全するにも不可欠な情報であるので、環境省として関連部分を日本語に訳し、公開すべきだと考えるがどうか。

5. 2019年9月に、国立公園である北部訓練場返還地に米軍ヘリが着陸している。この件で環境省は、状況を確認してからでないとコメントできないとしていた。環境省は状況を確認したあと、米軍に対してどのような対応をとったのか。

6. 環境省は2019年10月にやんばるの世界遺産候補地をIUCNが視察する際、北部訓練場返還地を案内したか。また、世界遺産候補地上空を低空で米軍機が頻繁に飛行することを伝えたか。

7. 環境省は、北部訓練場返還地の一部をやんばる国立公園に編入したあとに散策路として位置付ける計画を立てていたが実行されていない。それはどうしてか。